

事例番号 011 市民が考える都市景観(青森県弘前市)

1. 背景

弘前市は 17 世紀初めから津軽藩 10 万石の城下町として発展し、現在のまちの基礎は約 400 年前の江戸時代初期に行われた町割りによっている。明治以降は陸軍第八師団司令部が設置されて軍都としての性格も持ったが、戦災はまぬがれ、市内には国指定史跡の弘前城跡をはじめとする数多くの歴史的建造物・史跡や明治・大正期に建築された教会、銀行等の洋風建築物が残されている。

弘前市は緑と水に恵まれた都市である。西部には津軽地域の象徴であり日本百名山にも選ばれた標高 1,625m の岩木山がそびえ、津軽富士として親しまれている。市の中心部には世界遺産に登録されている「白神山地」に源を発する一級河川岩木川が流れている。

市の経済を見ると、中心部には商業、工業、学術文化、医療福祉をはじめとする諸機能が集積し、津軽地域の中心都市としての機能を果たしている。一方、市の郊外では日本一の生産量を誇るりんごを主体とした農業が営まれ、岩木川沿いなどの水田地帯とともに広大な田園景観をつくっている。

このように、弘前市は数多くの歴史的資源と豊かな自然とを有し、それらと産業とが調和した都市であることから、歴史的建造物の保存など景観保全も早い時期から行われてきている。そして、1975 年には全国紙において「風格のある町」の東の横綱に選定されている。また、1978 年に弘前城跡の北側に位置する「仲町」(なかちょう)が伝統的建造物群保存地区に指定されている。

しかしながら、この頃から土地区画整理事業や大規模宅地開発による田園景観の喪失、国道等の沿道における大型商業施設の立地や大規模広告物の建設による沿道景観の悪化、大型マンションの建設による岩木山の眺望の阻害が見られるようになった。そして、このような現実に直面して、市民、行政ともに景観保全の必要性をより強く意識するようになってきた。



弘前市の位置 (資料: 社団法人弘前観光コンベンション協会ホームページ)

2. 目標

平成 12 年弘前市総合計画(2000 年策定、目標年次 2010 年)では、「人とふれあい人が支えるまち」「地域資源を活用した豊かな産業のまち」「環境にやさしい自然と調和したまち」を市の将来像として掲げていたが、その後の合併により現在見直しが進められている(2006 年 2 月、弘前市、岩木町、相馬村の 3 市町村が合併し新・弘前市となっている)。合併の際の新市建設計画では、「自然と共に生きる豊かな産業・文化都市」を目標に掲げている。

3. 取り組みの体制

市民の景観への関心を高めるため、市がおおむね毎年「景観フォーラム」を開催してきている。



弘前市中心部 (資料: 社団法人弘前観光コンベンション協会ホームページ(部分引用))

4. 具体策

(1) 都市景観モデル都市の指定

弘前市における総合的な景観施策の展開は、1989 年に旧建設省から「都市景観形成モデル都市」の指定を受けたことから始まっている。それ以前における弘前市の景観施策は歴史的資源の保全という観点で行われていたが、「都市景観形成モデル都市」の指定を受けたことを契機として、

景観を守るだけでなく、守るべき景観資源を活用してさらに新たな景観をつくり出すというより積極的な施策が展開されるようになった。

「都市景観モデル都市」の指定後、景観に関する各種の計画やガイドラインの策定を通じて市の景観施策の方向性が明らかにされるとともに、住民や事業者に対する景観づくりの周知・意識高揚が図られてきている。1994年度には弘前市都市景観条例を制定して景観施策の体系づくりを行い、現在に至っている。

(2) 都市景観フォーラム

「都市景観形成モデル都市」の指定を受けたことを契機に、1988年度(1989年2月)以降市の主催で「都市景観フォーラム」が開催されるようになった(基本的には年1回)。その目的は、市民に弘前市の景観を再確認してもらうとともに一人ひとりが景観をつくるということを認識してもらい、市民に自主的に景観保全・景観づくりに取り組んでもらうところにある。

フォーラムでは毎年テーマを定め、テーマに沿った講演やパネルディスカッションを行っている。講演やパネルディスカッション等では、海外や国内の先進都市の事例を交えつつ一般的な景観に関する考え方や取組みを紹介しているほか、弘前市内のまちなみや建築物などにスポットを当てて市内の優れた景観の再確認、景観の保全や景観づくりの考え方、景観阻害に関する問題点を学習している。


また、テーマによっては住民参加の手法を取り入れており、街路整備や区画整理事業など実際の都市計画事業の実施にあわせてワークショップや旗上げアンケートを行い、新しいまちなみや景観のあり方について住民とともに考える場としている。

さらに2004年度においては、市民が景観について学習する機会を創出するため、「私たちが選ぶ弘前の景観2004」と題して景観に関する講習会等を実施した。この活動では講習会のほか、参加者に市内に残したい景観を記録してもらい、1冊の冊子にまとめ、希望する住民へ配布した。また、「私たちが選ぶ弘前の景観2004」の参加者の代表6名がパネラーになってパネルディスカッションを開き、住民の目線からみた弘前に残したい景観や景観に対する思いなどをフォーラム参加者に広く紹介した。フォーラムの参加者は例年100名から200名程度となっている。

景観についての知識を身につけながら、自分たちの周りの残しておきたい風景を探し、成果を発表します。

私たちが選ぶ
弘前の景観2004

**景観観察隊
募集**



▽活動期間 1月から17年3月の15か月間

▽活動内容 景観アドバイザーの講義、残しておきたい風景の探索と写真撮影、冊子・景観マップなどの作成

▽対象 高校生以上の市民 30人

▽問い合わせ・申込先 1月5日～20日に、都市計画課(新館5階、市内線447番)へ。

景観についての知識を身につけながら、自分たちの周りの残しておきたい風景を探し、成果を発表します。

『広報ひろさき』2004年1月1日号の記事



フォーラムの様子（写真提供:弘前市）

これまでのフォーラムの主な内容は以下のとおりである。

【第1回 1988年度】

1989年2月開催

基調講演

「弘前市における都市景観の特性と課題」

「盛岡市における都市景観形成の取り組みについて」

パネルディスカッション

【第2回 1990年度】

1991年3月開催

都市景観講座「都市景観と色彩」

－魅力ある街づくりと色彩の役割について－

【第3回 1992年度】

1992年12月開催

基調講演「建築家 前川國男が弘前に寄せた思い」

パネルディスカッション「城下町・景観の保全と創造」

【第4回 1993年度】

1993年12月開催

「新たな弘前らしさの創造と都市景観」

第一部 市民による景観レポート(市民3名の発表)

第二部 講演「都市景観を考える」

【第5回 1994年度】

1995年3月開催

ワークショップ「弘前らしさって何だ」

第一部 ディスカッション「景観づくりにどう参加する」

第二部 ワークショップ …旗上げ方式アンケート

【第6回 1995年度】

1996年3月開催

「楽しくしたいね 街の顔」－魅力ある都市景観づくりに向けて－

第一部 基調講演「新しい必需品」

第二部 パネルディスカッション

【第7回 1996年度】

1997年3月開催

ワークショップ「まちの緑を考えよう」

市内の2つの小学校学区の人々による「まちの緑」の意見交換

(大人・小学生各2グループ)

(弘前大学住居学研究室・弘前創生塾生及び市役所職員によりテーブル進行)

【第8回 1997年度】

1998年3月開催

「屋外広告物の魅力を高める」

第一部 基調講演「まちなみ景観とサイン」

第二部 パネルディスカッション

【第9回 1998年度】

1999年3月開催

「弘前公園周辺の景観を考える」

第一部 基調講演「川越からの景観メッセージ」

－住む人の知恵と思いがまちをつくる－

第二部 パネルディスカッション

【第10回 1999年度】

2000年3月開催

「美しいまちをわたしたちの手で」

第一部 基調講演「美しいまちをつくる」神奈川県真鶴町(美の基準)

第二部 対談

【第11回 2000年度】

2000年10月開催

「弘前駅周辺の景観を考えよう」

第一部 パネルディスカッション「新たな弘前の顔づくり」

第二部 旗上げアンケート

【第12回 2001年度】

2001年10月開催

まち・景観フォーラム in HIROSAKI

古都弘前・新世紀ひろさきを考える －歴史を活かす新しい建築の創造と都市景観－

(東北地方整備局と共催)

第一部 対談「東北の街・弘前のまち」－真の豊かな風景とは－

第二部 パネルディスカッション「弘前らしさ まち・人・建物」

【第13回 2002年度】

2003年2月開催

弘前市都市計画マスタープラン試案公表記念行事 「景観・まち育て・都市計画マスタープラン」

午前の部 全市版「まち育ての集い」

(都市計画マスタープラン試案ポスターセッション)

午後の部 都市景観フォーラム

第一部 基調講演「都市デザインとマスタープランについて」

第二部 パネルディスカッション「景観・まち育て・都市計画マスタープラン」

【第14回 2003年度】

2004年2月開催

「ロケ地としての弘前の魅力」

第一部 基調講演 「ロケ地としての弘前の魅力的な景観づくり」

第二部 パネルディスカッション「弘前の街・建物、その魅力」

【第15回 2004年度】

2005年2月開催

「景観からまちづくりを考える」

第一部 基調講演 「景観からまちづくりを考える」

第二部 パネルディスカッション

「みんなで語ろう!!弘前の景観」ー景観観察隊が見た弘前ー

【第16回 2005年度】

2006年1月開催

第一部 基調講演

「ロンドンの公共建築から見るまちづくりの方法、そして、東京都立川市の市庁舎計画の提案をめぐって」

第二部 対談「前川國男と弘前」

ー前川建築を通して弘前のまちづくりを語るー

5. 特徴的手法

今日に至るまで全市的なフォーラムで一貫して景観の重要性を訴え続けてきた意義は大きい。その継続の力が、弘前市の景観を比較的良好に維持している市民の力を象徴している。フォーラムで扱っているテーマ、手法は多様であり、そこには他都市にとっても参考になる情報が豊富に含まれている。

6. 課題

フォーラムを契機に市民団体主催の小規模な活動が連鎖的に展開されていくことが期待される。

(参考・引用文献)

弘前市ホームページ

社団法人弘前観光コンベンション協会ホームページ

中出文平＋地方都市研究会編著『中心市街地再生と持続可能なまちづくり』学芸出版社、2003年

佐藤滋＋城下町都市研究体編著『図説 城下町都市』鹿島出版会、2002年